

早いもので今年ももう終わりですよ。イルミネーションを見に行ったり忘年会を楽しんだり。あっ、今年こそ！と思っていたことをやり遂げようにも、もう時間が足りないかも……。そしたら、来年こそ！ってことにしておきましょう。

■要約筆記者養成講座が終了しました！

10月2日（日）、2年度にわたって開催された要約筆記者養成講座が終わり、手書き4名、パソコン12名が修了されました。

来年2月には全国統一要約筆記者認定試験が実施されます。一人でも多くの方が意思疎通支援者として活躍されることを期待しています。皆さま、お疲れ様でした。



（要約筆記者養成講座修了式の様子）

おらせ

今後も、皆さまにさまざまな情報をお伝えするため、当センター登録団体の行事情報などを、このセンター便りでも紹介していくことになりました。

当センター登録団体の皆さま、もし「この行事を県民に周知してほしい」「もっと聞かえない人や関係者に伝えたい」という行事情報がありましたら、当センターまでご相談ください！

■手話通訳者養成講座も頑張っています

手話通訳者全国統一試験が12月3日（土）に行なわれました。

今年度10月2日に四日市会場にて修了した16期生11名のほか計20名を超える受験者が鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスにて挑戦！

受験者のみなさん、手応えはいかがでしたか。

今年度開講の津会場では手話通訳Ⅰ（ホップ）後半の学習にさしかかり予習・復習を含めとても熱心な17期生9名にて講座進行中です。

■聴覚障害者生活訓練事業『教養講座 盲ろう啓発講演会を開催します！』

「盲ろう」という障害の大きなハンデは、視覚的・聴覚的に「情報が入らない」「コミュニケーションができない」「異動が困難」なことです。

日本には2万人前後の盲ろう児・者が、そして三重にも100人を超える盲ろう児・者がいると推定されています。

その盲ろう当事者であり、海外留学の経験をもち、あいち聴覚障害者センターで勤務されている小林さんを講師にお招きし、ご講演いただくことになりました。

- 日 時：2017年2月26日（日）10:00～12:00
 - 場 所：三重県社会福祉会館 3階講堂
 - 参加費：無料（事前参加申し込み制）
 - 情報保障：盲ろう者通訳・介助、手話通訳、要約筆記
- また、講演終了後、地域活動団体交流の一環として、「三重盲ろう者きらりの会」との交流の場も設けています。案内は当センターホームページからもダウンロードできます。ぜひご参加ください！

主催：三重県聴覚障害者支援センター

聴覚障害者生活訓練事業（教養講座）

『日本、アメリカ、スウェーデンの盲ろう者福祉の違い』

『アッシャー症候群について』

講師：小林 功治氏
（あいち聴覚障害者センター職員）

参加費無料
（事前申し込み制）

2017年2月26日（日）

時間 10:00～12:00（受付9:45）

会場 三重県社会福祉会館 3階講堂
（〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目131）

情報保障 盲ろう者通訳・介助員、手話通訳、要約筆記

実際に、アメリカやスウェーデンに留学した体験をもとに、盲ろう者から見た日本との福祉の違いを語っていただきます。

申込方法：氏名・住所・必要な情報保障センターにFAXあるいはメールでお知らせください。
申込締切：2月12日（日）
※午後13:00～15:00からは「きらりの会」企業の講演を交えても交流があります。きらりの会員、賛助会員以外の方でも、どなたでも参加できます。

お問い合わせ先 三重県聴覚障害者支援センター
FAX 059-223-3301 MAIL Deaf.mie-center@vivid.ocn.ne.jp

字幕映像ライブラリー NEWS

今年4月から、障害者差別解消法が施行され、今や行政や企業からの手話通訳や要約筆記派遣依頼は急増しています。聞こえない人と聞こえる人をつなぐ大変なお仕事、それが手話通訳や要約筆記。今月は通訳業務に関する映像作品を紹介します！

なお、「借りたいけど、なかなかセンターに行くヒマがない～」とお嘆きのアナタ、大丈夫です。郵送で貸出や返却ができます。詳しくは当センターホームページで！



■字幕映像ライブラリー 今回のイチオシ作品 はこれです！

『プロフェッショナル 仕事の流儀 言葉を超えて、人をつなぐ 会議通訳者 長井鞠子』

聴覚障害者向け映像ライブラリー
(共同事業)

B-3

プロフェッショナル
仕事の流儀
言葉を超えて、人をつなぐ
会議通訳者 長井鞠子

(平成26年3月3日放送)

分類番号:DD2015-001
時間:48分
制作・提供:NHK

(社)聴覚障害者情報文化センター

高度な語学力と集中力、そして瞬発力が求められる同時通訳者。中でも、長井鞠子(ながいまりこ)さんは、年間200もの国際会議を任されるフロ中のフロだ。

石原元都知事をはじめ、世界中の要人からあつい支持を集める。

通訳に必要な日本語の力を研ぎ澄ますために、和歌の稽古に取り組み、キャリア40年の今も手書きの単語帳づくりを欠かさない。70歳にして、なおトップ通訳者として活躍する長井さんの姿を追う。

この作品は、視聴した手話通訳者や要約筆記者に、「通訳者としての姿勢をあらためて学べた」と、とても好評です！

「人をつなぐ」という通訳者の大切な仕事と重い役割、そしてそれを果たすべく、今も努力を欠かさないその姿勢は、感銘を受けます！

■当センター自主制作番組 『鳥羽水族館 もっと！水の惑星(ほし)紀行』

『もっと！水の惑星(ほし)紀行』は、鳥羽水族館と(株)ZTV伊勢放送局が共同制作した、ラッコやアザラシ等、豊富な生きものの映像を使い、野生生物の暮らしを紹介しながら、生命と地球環境について一緒に考えていく、毎月放映されているシリーズ番組です。

その人気番組に、当センターが字幕付与を行いました。お子さんはもちろん、大人の方でも思わぬ発見や驚きがあり、見ていて楽しめる内容です。

さて、今回紹介するのは・・・

『冷たい海で元気な生きものたち』

〈番組の内容〉

冷たい海で元気な生きもの、最初に登場するのはラッコ。冷たい水の中でも平気でいられるのは、8億本の毛で保温しているからなんです。生きている化石といわれるオウムガイや長い絶食で有名になったダイオウグソクムシは深海といわれるところで生活しています。また、鳥羽水族館の横の海も、冬には10℃よりも下がります。そんな中でも、生きものたちは元気にすごしています。

鳥羽水族館・(株)ZTV伊勢放送局 制作番組



【2016年制作】

『冷たい海で元気な生きものたち』



三重県聴覚障害者支援センター